打ち傷

シリーズ～十字架～

ペトロの手紙Ⅰ　2章24節

- そして、十字架にかかって、自らその身にわたしたちの罪を担ってくださいました。わたしたちが、罪に対して死んで、義によって生きるようになるためです。そのお受けになった傷によって、あなたがたはいやされました。

ユダヤ人にとって「罪」とは

- 律法に違反することである
  - 「律法」は神とユダヤ人との間に交わされた契約である
  - 律法はモーセの十戒を中心とした、生活全般の規則である

律法の完成者イエス

- イエスの人生の目的は律法を完成することであった

「わたしが来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思ってはならない。廃止するためではなく、完成するためである。」
＜マタイ5:17＞

イエスにとって律法とは

- イエスは律法の文言ではなく、その精神を重視した

「あなたがたも聞いているとおり、昔の人は『殺すな。人を殺した者は裁きを受ける』と命じられている。しかし、わたしは言っておく。兄弟に腹を立てる者はだれでも裁きを受ける。兄弟に『ばか』と言う者は、最高法院に引き渡され、『愚か者』と言う者は、火の地獄に投げ込まれる。」 ＜マタイ5:21-22＞

イエスにとって「罪」とは

- 規則（律法）を破ることではなく、人の心に横たわるずるさや醜さ、汚さであった

「人を裁くな。…あなたは、兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか。兄弟に向かって、『あなたの目からおが屑を取らせてください』と、どうして言えようか。自分の目に丸太があるではないか。」

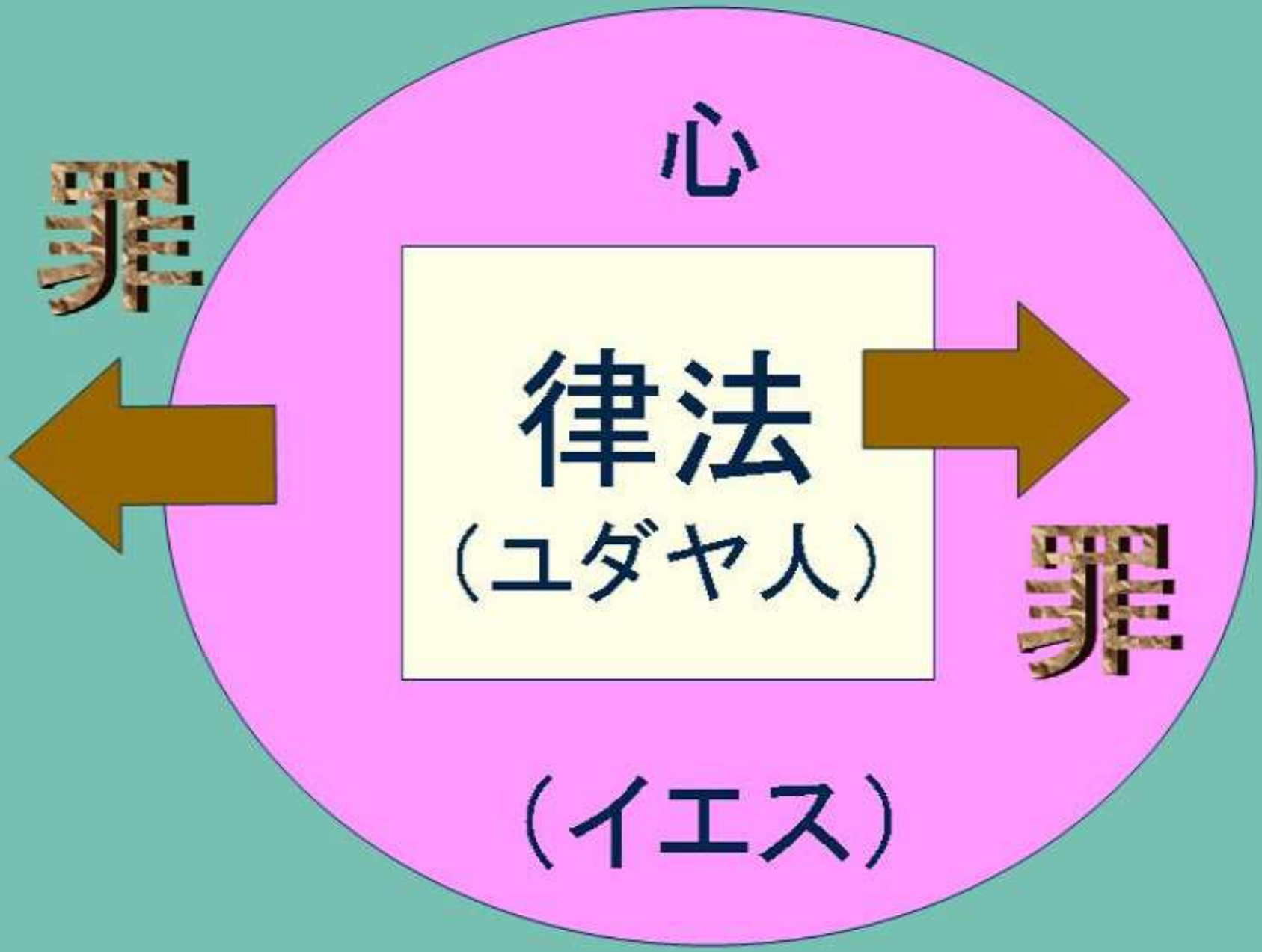
＜マタイ7:1-5＞

イエスはその「罪」を担われた

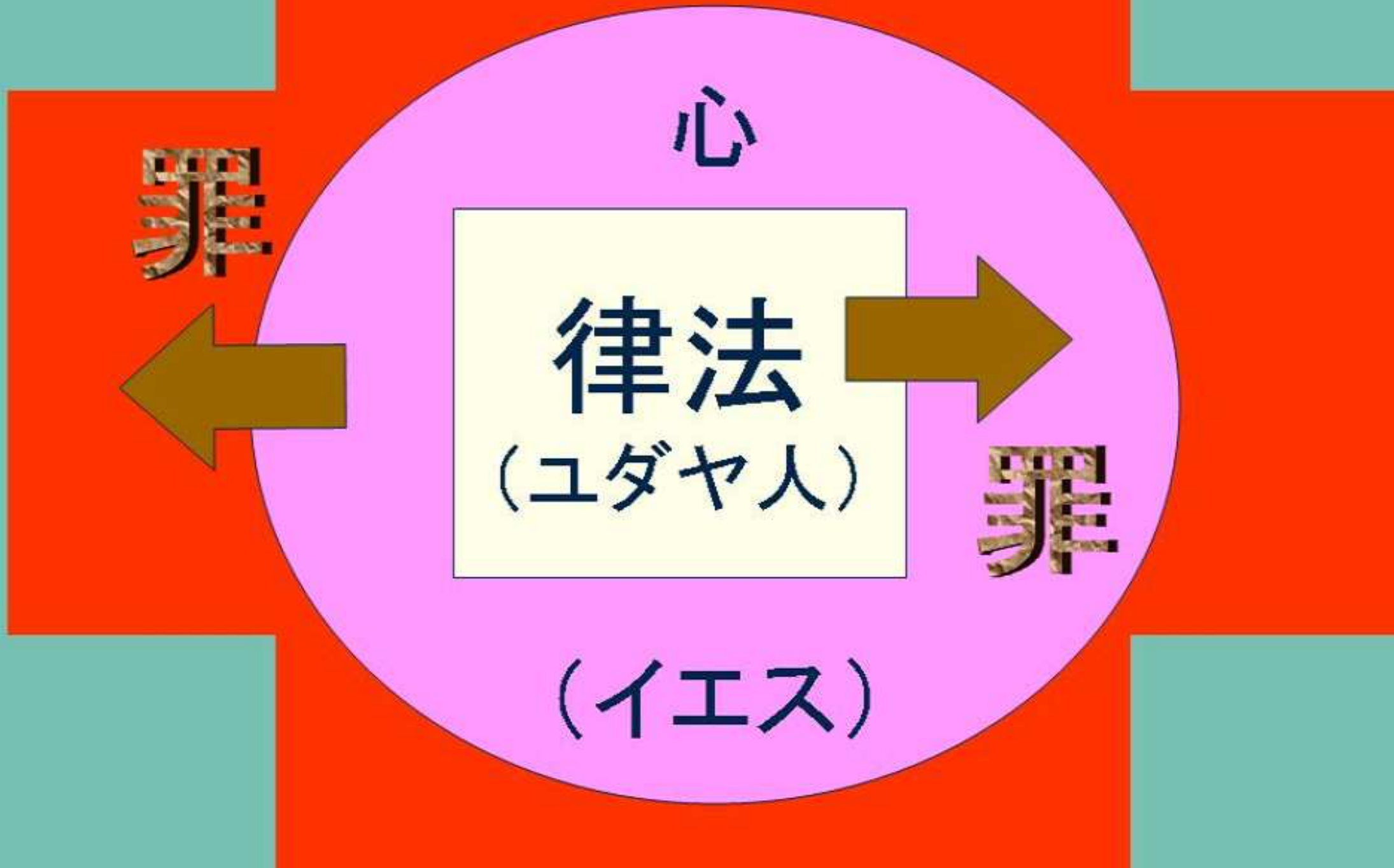
- 罪について教えるだけで十分ではないか？
- 律法の完成のためには罪を贖わねばならなかった
  - 罪に対する罰（罪の償い）は人間社会の秩序を維持する絶対条件である
- 人間は徹底的に罪深いので、自ら罪の償いをすることはできない
  - イエスが十字架は身代わりの罰であった

律法
（ユダヤ人）

罪


心
罪
律法
（ユダヤ人）
罪
（イエス）

十字架



正しく生きるために

- イエスの十字架は、「わたしたちが、罪に対して死んで、義によって生きるようになるため」だった
  - 罪深さばかり意識しても、解決がなければ恐れるばかりである。
  - イエスはまず私たちの罪を解決し、正しく生きる自由を与えられたのである

傷による癒し

- イエスの死に方は律法に定められた犠牲の献げ方とは異なっていた
- イエスは最も激しい苦痛を味わわれた
  - 鞭打ち・茨の冠・十字架
- それは私たちの罪を赦すためだけではなく、正しく生きることによって受ける傷を癒すためであった